

中国アモイに渡る。安政6年(1859)に横浜に上陸。神奈川の成仏寺を住居とし、近隣の宗興寺を施療院として日本人を治療した。文久2年(1862)に横浜居留地39番に移る。同じ年に起きた生麦事件で、負傷した英国人を治療した。また聖書の翻訳を行い、ヘボン塾を開校して夫婦で英語を教えた。ヘボン塾は、後の明治学院やフェリス女学院の礎となった。明治25年(1892)に帰国。

本文を読む

<再版>

『和英語林集成』2版 平文著 アメリカ・プレスビテリアン 1872 [K83.1/6A]

<復刻>

『和英語林集成』J. C. ヘボン著 講談社 1980 [K83.1/23]

※1886年丸善刊行改正増補(第3版)の複製縮小版

『和英語林集成 初版・再版・三版対照総索引』第1-3巻 ジェイムズ・カーチス ヘボン著 飛田良文・李漢燮編 港の人 2000-2001

[K83.1/41/1] - [K83.1/41/3]

<影印>

『和英語林集成 初版訳語総索引』飛田良文・菊地悟 共編 笠間書院 1996

[K83.1/38] ※「英和の部」のみ影印で掲載されている。索引は平仮名表記。

参考文献

『ヘボン』W. E. グリフィス著 教文館 1991 [K28/205] [289.3/1075]

「第7章 ドクトル・ヘボンの和英大辞典」(『英和・和英辞典の誕生』岩堀行宏著 図書出版社 1995) [K83.1/36] [833DD/232]

『ヘボン『和英語林集成』の背景』大島智夫著 明治学院大学キリスト教研究所 1996 [K83/16] [833/242]

『和英語林集成 第三版訳語総索引』武蔵野書院 1997 [K83.1/39]

『ペリーとヘボンと横浜開港』丸山健夫著 臨川書店 2009 [K25.1/66]

『J. C. ヘボン和英語林集成手稿 翻字・索引・解題』J. C. ヘボン著 木村一・鈴木進編 三省堂 2013 [K83.1/46]

『和英語林集成の研究』木村一著 明治書院 2015 [K83.1/47]